

I	1	1	<i>The Devīmāhātmya Paintings Preserved at the National Archives, Kathmandu.</i> Bibliotheca Codicum Asiaticorum No. 9, Tokyo: The Centre for East Asian Cultural Studies for Unesco, March, 1995, 123pp., 124plates. (森喜子と共著)
I	2	2	『ネパール国立古文書館所蔵『デーヴィーマーハートミヤ』絵画集』ユネスコ東アジア文化研究センター(財団法人東洋文庫附置)1995年3月、31頁。(森喜子と共著、上記1(1)の解説部分の日本語版)
I	3	3	<i>The Vajrāvālī of Abhayākara Gupta: A Critical Study, Sanskrit Edition of Selected Chapters and Complete Tibetan Version</i> (PhD Dissertation submitted to the School of Oriental and African Studies, University of London), October 1997, 482pp.
I	4	4	『マンダラの密教儀礼』春秋社 1997年12月、252頁。
I	5	5	『インド密教の仏たち』春秋社 2001年2月、334頁。
I	6	6	『仏のイメージを読む:マンダラと浄土の仏たち』大法輪閣 2006年8月、274頁。
I	7	7	『生と死からはじめるマンダラ入門』法蔵館 2007年7月、222頁。
II	1	8	<i>Five Hundred Buddhist Deities.</i> Senri Ethnological Reports No. 2. Senri: National Museum of Ethnology, March, 1995, 555pp. (立川武蔵・山口しのぶと共編)。
II	2	9	<i>Three Hundred and Sixty Buddhist Deities.</i> Asian Iconography Series No. 2. New Delhi: Adroit, 2001, 389pp. (立川武蔵・山口しのぶと共編)。
II	3	10	『能登半島地震ボランティア活動報告書 常德寺所蔵 藤懸得住関連資料の調査報告』金沢大学文学部 2008年3月、102頁。
III	1	11	『『完成せるヨーガの環』(Niṣpannayogāvalī) 第21章「法界語自在マンダラ」訳およびテキスト』『法界マンダラの神々(国立民族学博物館研究報告別冊第7号)』長野泰彦・立川武蔵編 1989年3月 pp. 235-282.
III	2	12	「パーラ朝の守護尊・護法尊・財宝神の図像的特徴」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』第6号 1990年12月 pp. 69-111.
III	3	13	「Abhayākara Guptaのマンダラ儀軌Vajrāvālī」『印度学仏教学研究』第39巻第2号 1991年3月 pp. 197-199(横組)。
III	4	14	「インド密教儀礼における水」『国立民族学博物館研究報告』第15巻 第4号 1991年3月 pp. 1013-1047.
III	5	15	「インド密教における建築儀礼: Vajrāvālī-nāma-maṇḍalopāyikā 和訳(1)」『名古屋大学文学部研究論集』第111巻 1991年3月 pp. 53-73.
III	6	16	「十忿怒尊のイメージをめぐる考察」『仏教の受容と変容3 チベット・ネパール編』立川武蔵編 佼成出版社 1991年12月 pp. 291-324.
III	7	17	『『ヴァジュラーヴァリー』と『マンダラ儀軌四百五十頌』』『印度学仏教学研究』第40巻第2号 1992年3月 pp. 188-191(横組)。
III	8	18	「インド密教における結界法: Vajrāvālī-nāma-maṇḍalopāyikā 和訳(2)」『名古屋大学文学部研究論集』第114巻 1992年3月 pp. 89-109.
III	9	19	「観想上のマンダラと儀礼のためのマンダラ」『日本仏教学会年報』第57巻 1992年5月 pp. 73-90。(日本仏教学会編『仏教における心と形』平楽寺書店 1992年10月 pp. 73-90に再録)
III	10	20	「インド密教における入門儀礼」『南アジア研究』第4号 1992年10月 pp. 15-32。(宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系 第九巻 密教の実践』法蔵館 1994年12月 pp. 426-477に再録)
III	11	21	「マハーマーヤーの成就法」『密教図像』第11号 1992年12月 pp. 23-43.
III	12	22	「護摩修法と火焔に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』第117巻 1993年3月 pp. 35-52.
III	13	23	「アバヤーカラグプタの灌頂論」『印度学仏教学研究』第41巻第2号 1993年3月 pp. 234-242(横組)。
III	14	24	"Ratnākaraśānti's Sādhana Literature: Sanskrit text and Tibetan translation of the Mahāmāyāsādhana". <i>Studies in Original Buddhism and Mahāyāna Buddhism in Commemoration of Late Professor Dr. Fumimaro Watanabe</i> (Ed. by Egaku Mayeda) 2 vols. Kyoto, Nagatabungshodo, May, 1993, pp. 131-152(in Vol. 1).
III	15	25	「賢劫十六尊の構成と表現」『宮坂宥勝博士古稀記念論文集 インド学密教学研究』法蔵館 1993年5月 pp. 909-937.
III	16	26	「サンヴァラマンダラの図像学的考察」『曼荼羅と輪廻 その思想と美術』立川武蔵編 佼成出版社 1993年12月 pp. 206-234.
III	17	27	「インド密教における護摩儀礼の展開」『印度学仏教学研究』第42巻第1号 1993年12月 pp. 127-135(横組)。
III	18	28	『『完成せるヨーガの環』第1章「文殊金剛マンダラ」訳およびテキスト』『高野山大学密教文化研究所紀要』第7号 1994年3月 pp. 113-142.

III	19	29	「密教儀礼と聖なる空間」『日本仏教会年報』第59巻 1994年5月 pp. 105-121(横組). (日本仏教会編『仏教における聖と俗』平楽寺書店 1994年8月 pp. 105-121に再録)
III	20	30	「インド密教におけるバリ儀礼」『高野山大学密教文化研究所紀要』第8号 1994年12月 pp. 174-204.
III	21	31	「インド後期密教の儀礼文献の構成」『南アジア・東南アジアにおける宗教、儀礼、社会:「正統」、ダルマの波及、形成と変容』(Monumenta Serindica No. 26) 石井 溥編 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1995年3月 pp. 19-34.
III	22	32	「インド密教におけるプラティシュター」『高野山大学密教文化研究所紀要』第9号 1995年12月 pp. 27-65.
III	23	33	「インド密教におけるプラティシュターの構造」『印度学仏教学研究』第44巻第2号 1996年3月 pp. 159-163.
III	24	34	「パーラ朝の文殊の図像学的特徴」『高野山大学論叢』第31巻 1996年3月 pp. 55-98.
III	25	35	「マンダラの形態の歴史的変遷」『マンダラ宇宙論』(立川武蔵編)法蔵館 1996年9月 pp. 143-173.
III	26	36	「『完成せるヨーガの環』第11章「ヴァジュラフーンカーラ・マンダラ」訳およびテキスト」『高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集』高野山大学 1996年9月 pp. 101-124.
III	27	37	「『完成せるヨーガの環』の成立に関する一考察」『密教図像』第15号 1996年10月、pp. 28-42.
III	28	38	「オリッサ州立博物館の密教美術」『高野山大学密教文化研究所紀要』第10号 1997年1月、pp. 29-70.
III	29	39	「ペンコルチューデ仏塔第5層の『金剛頂経』所説のマンダラ」『チベット仏教図像研究 ペンコルチューデ仏塔(国立民族学博物館研究報告別冊 第18号)』(立川武蔵・正木晃編)1997年3月、pp. 269-318.
III	30	40	「インドの密教美術とピヤン・トンガ遺跡」『西蔵(チベット)石窟遺跡』頼富本宏監修 集英社、1997年11月 pp. 117-124. (中国語訳が「印度密教美術与皮央・東〇遺址」として『越〇 喜馬拉雅』四川大学出版社、2007年4月、pp. 55-63に収録)
III	31	41	「パーラ朝の金剛手・金剛薩埵の図像学的特徴」『密教図像』第16号 1997年12月 pp. 35-58.
III	32	42	「パーラ朝の弥勒の図像学的特徴」『高野山大学密教文化研究所紀要』第11号 1998年3月 pp. 1-38.
III	33	43	"The Synopsis of the Consecration Ceremony in the sNgags-rim chen-po (Chapters V-X)". <i>Mikkyo Bunka</i> (密教文化), Vol. 199/200, March 1998, pp. 1-19.
III	34	44	「密教儀礼の成立に関する一考察:アビシェーカとプラティシュター」松長有慶編『インド密教の形成と展開』法蔵館、1998年7月、pp. 305-328(「密教儀礼の成立に関する一考察:アビシェーカとプラティシュター」松長有慶編『大乘仏教における密教の形成過程の研究』平成7~9年度科学研究費補助金 基盤研究B研究成果報告書、1998年3月 pp. 151-165を増補改訂).
III	35	45	「ツインマーマン・コレクションの「ヴァジュラーヴァリー四曼荼羅」:チベットにおけるマンダラ伝承の一事例」『美術史』第145冊 1998年10月 pp.64-81.
III	36	46	「オリッサ州カタック地区の密教美術」『国立民族学博物館研究報告』第23巻第2号、1998年12月 pp. 359-536.
III	37	47	「集会樹の造型と儀礼」『印度学仏教学研究』第47巻第1号 1998年12月 pp. 194-200(横組).
III	38	48	「『アビサマヤ・ムクター・マーラー』所説の108マンダラ」『高野山大学密教文化研究所紀要』第12号 1999年2月 pp. 1-93(横組).
III	39	49	「ミトラヨーギン著『アビサマヤ・ムクター・マーラー』所説のマンダラ」『密教学研究』第31号 1999年3月 pp. 55-88.
III	40	50	「灌頂儀礼」立川武蔵・頼富本宏編『シリーズ密教 第1巻 インド密教』春秋社 1999年5月 pp. 194-208.
III	41	51	「マンダラの形と機能」立川武蔵・頼富本宏編『シリーズ密教 第2巻 チベット密教』春秋社 1999年8月 pp. 135-160.
III	42	52	「オリッサ出土の四臂観音:密教図像の成立に関する一考察」『高野山大学密教文化研究所紀要別冊(密教の形成と流伝)』第2号 2000年1月 pp. 119-145.
III	43	53	「インド密教における成就法と儀礼」『高野山大学論叢』第35巻 2000年2月 pp. 23-43(横組).
III	44	54	「青海省同仁県のボン教寺院」『高野山大学密教文化研究所紀要』第13号 2000年2月 pp. 1-86(横組).
III	45	55	"The Bon deities depicted in the wall paintings in the Bon-rgya monastery", S. Karmay & Y. Nagano eds. <i>New Horizons in Bon Culture in Tibet, Senri Bon Studies</i> 2, <i>Ethnological Reports</i> 15, National Museum of Ethnology, July, 2000, pp. 509-549.
III	46	56	「解体されるマンダラ:タンカの画面構成に関する一考察」『加藤純章博士還暦記念論集 アビダルマ仏教とインド思想』春秋社 2000年10月、pp. 373-386.

III	47	57	「時輪マンダラの墨打ち法」『高木神元博士古稀記念論集 仏教文化の諸相』山喜房仏書林 2000年11月 pp. 345-364.
III	48	58	「仏教における殺しと救い」立川武蔵編『癒しと救い:アジアの宗教的伝統に学ぶ』玉川大学出版部 2001年2月 pp. 154-171.
III	49	59	『『ヴァジュラーヴァリー』所説のマンダラ: 尊名リストおよび配置図』『高野山大学密教文化研究所紀要』第14号 2001年2月、pp. 1-117(横組).
III	50	60	「仏教学と図像研究」『日本仏教学会年報』第66号 2001年5月、pp. 195-209(日本仏教学会編『仏教をいかに学ぶか 仏教研究の方法論的反省』平楽寺書店 2001年10月 pp. 195-209に再録).
III	51	61	「ボストン美術館所蔵「カーラチャクラと諸尊図」』『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第22号 2002年3月、pp. 85-104.
III	52	62	「インドの不空罽索観音像」『佛教藝術』262号 2002年5月、pp. 43-67.
III	53	63	"The Kālacakra and Tantric Deities Preserved in the Boston Museum of Fine Arts", <i>Buddhist and Indian Studies in Honour of Professor Sodo Mori</i> . Hamamatsu: Kokusai Bukkyoto Kyokai, 2002, pp. 267-284.
III	54	64	「ヴァーストゥナーガに関する考察」『東洋文化研究所紀要』第142冊 2003年3月、pp. 219-263.
III	55	65	「集会樹にみられる宗教実践とイメージ」『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第23号 2003年3月、pp. 63-98(「集会樹にみられる宗教実践と美術」『宗教美術における視覚的イメージの機能と使用方法: 仏教・キリスト教美術の比較研究』平成12・13年度科学研究費補助金基盤研究B(1)研究成果報告書・宮治昭代表 2002年3月、pp. 59-92の増補改訂)
III	56	66	「密教文献に説かれるヴァーストゥナーガ」『高野山大学密教文化研究所紀要』第16号 2003年3月、pp. 21-49.
III	57	67	「空海の芸術観 芸術と儀礼」『密教の聖者 空海』高木神元・岡村圭真編 吉川弘文館 2003年11月、pp. 184-200.
III	58	68	「金剛界マンダラのヒンドゥー神」小野塚幾澄博士古稀記念論文集 空海思想と文化』ノンブル社 2004年1月、pp. 523-543.
III	59	69	『『ヴァジュラーヴァリー』「墨打ちの儀軌」和訳(上)』『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第24号 2004年3月、pp. 71-117.
III	60	70	「チベットのボン教における聖なるものの形」頼富本宏編『聖なるものの形と場』法蔵館 2004年3月、pp. 423-451.
III	61	71	"The Vāstunāga ritual described in Tsong-kha-pa's sNgags-rim chen-po", In S. Hino and T. Wada eds. <i>Three Mountains and Seven Rivers: Prof. Musashi Tachikawa's Felicitation Volume.</i> , Delhi: Motilal Banarsidaass, 2004, pp. 843-856.
III	62	72	「インド密教における聖地と巡礼」『東洋文化研究所紀要』第144冊 2004年12月、pp. 177-232.
III	63	73	「仏教の空間論への視座」『論集』第31号 2004年12月、pp. 1-17.
III	64	74	『『ヴァジュラーヴァリー』「墨打ちの儀軌」和訳(下)』『高野山大学密教文化研究所紀要』第18号 2005年2月、pp. 1-57(横組).
III	65	75	『『ヴァジュラーヴァリー』「彩色の儀軌」和訳』『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第25号 2005年3月、pp.91-127.
III	66	76	"The Installation Ceremony in Tantric Buddhism", In. S. Eino & J. Takashima eds., <i>From Material to Deity: Indian Rituals of Consecration</i> . Japanese Studies on South Asia No. 4. Delhi: Manohar, March 2005, pp. 199-240.
III	67	77	「感得像と聖なるものに関する一考察」『真鍋俊照博士還暦記念論集 仏教美術と歴史文化』法蔵館 2005年10月、pp. 27-46.
III	68	78	「マンダラは心を表しているか: ユングのマンダラ理解に関する一考察」『頼富本宏博士還暦記念論集 マンダラの諸相と文化』法蔵館 2005年11月、pp. 77-96.
III	69	79	「アバヤーカラグプタの密教儀軌三部作と『阿闍梨所作集成』: インド密教儀礼の集大成」松長有慶編『インド後期密教(上) 方便・父タントラ系の密教』春秋社 2005年11月、pp. 187-224.
III	70	80	『『ヘーヴァジュラタントラ』: 聖と性の饗宴』松長有慶編『インド後期密教(下) 般若・母タントラ系の密教』春秋社 2006年1月、pp. 47-90.
III	71	81	「ラジャスターン州ジャガットのアンピカー寺院」『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第25号 2006年3月、pp. 121-146.
III	72	82	「両界曼荼羅の世界」生井智紹編『高野山大学選書 第2巻 真言密教の新たな展開』小学館スクウェア 2006年9月 pp. 86-105.
III	73	83	「エローラ第11窟、第12窟の菩薩群像」『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第27号 2007年3月、pp.99-134.
III	74	84	「ネパールの大日如来」『大日如来の世界』春秋社 2007年11月、pp. 65-87.
III	75	85	「チベットの大日如来」『大日如来の世界』春秋社 2007年11月、pp. 89-122.

III	76	86	「チベットにおける『ヴァジュラーヴァリー』所説のマンダラの作例と系譜」宮治昭先生献呈論文集刊行委員会編『汎アジアの仏教美術』中央公論美術出版社 2007年12月、pp. 150-171。
III	77	87	『「サーダナマラー」』「仏頂尊勝成就法」和訳及びテキスト」加藤精一博士古稀記念論文集 真言密教と日本文化(下)』ノンブル社 2007年12月、pp. 137-158。
III	78	88	「初期ハッラヴァ朝におけるヒンドゥー石窟の彫刻」『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』第28号 2008年3月、pp. 173-205。
III	79	89	The <i>Vajrāvalī maṇḍala Series in Tibet. Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept.-8 Sept. 2006.</i> Koyasan: Executive Committee, ICEBS, March 2008, pp. 223-241.
IV	1	90	「ジャナ・バナにおける日常供養」 <i>Saṃbhāṣā</i> 第10号 1988年6月 pp. 71-90.
IV	2	91	「カトマンドゥ市タン・パヒー寺の法界語自在マンダラ」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』第8号 1992年12月 pp.47-68.
IV	3	92	「『ヴァジュラーヴァリー・マンダラ集』第14番の概要」『高野山大学論叢』第33巻 1998年2月 pp. 55-72.
IV	4	93	「ネパール国立古文書館所蔵『百八観音白描集』」『密教文化』第206号 2001年3月 pp. 56-107(横組)。
IV	5	94	『ハラー朝の仏教美術作例リスト』(『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊3)高野山大学密教文化研究所 2006年3月、288頁。
V	1	95	「密教儀礼の成立に関する一考察:アビシェーカとブラティシュター」松長有慶編『大乘仏教における密教の形成過程の研究』平成7~9年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)研究成果報告書、1998年3月、pp. 151-165.
V	2	96	『オリッサ州カタック地区の密教図像の研究』平成8~10年度文部省科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)研究成果報告書、1999年3月、88頁。
V	3	97	「インドとチベットの密教における実践と美術」宮治昭編『宗教的実践の視点による仏教美術とキリスト教美術の比較研究』平成9~10年度文部省科学研究費補助金 基盤研(B)(2)研究成果報告書、1999年3月、pp. 75-85.
V	4	98	「青海省同仁県のボン教寺院」長野泰彦編『チベット文化域におけるボン教文化の研究』平成8~10年度文部省科学研究費補助金 国際学術研究・学術調査 研究成果報告書、1999年3月、pp. 21-46.
V	5	99	「集会樹にみられる宗教実践と美術」宮治昭編『宗教美術における視覚的イメージの機能と使用方法:仏教・キリスト教美術の比較研究』平成12・13年度科学研究費補助金基盤研究B(1)研究成果報告書、2002年3月、pp. 59-92.
V	6	100	『チベット仏教絵画の図像学および様式史的研究』平成13・14年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)研究成果報告書、2003年3月、222頁。
V	7	101	「明・清代のチベット系金銅仏」頼富本宏編『北京首都博物館蔵・中国現存金銅仏群の総合的研究』平成13~15年度文部省科学研究費補助金 基盤研究(B)(1) 研究成果報告書、2004年3月、pp. 17-24.
V	8	102	「ラダック地方ヘミス寺の八十四成就者図」立川武蔵編『ヒマラヤ地域における仏教タントリズムの基層に関する研究』平成14~17年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査 研究成果報告書、2006年3月、pp. 23-52.
V	9	103	「ナウラカ寺院の彫刻」(pp. 227-237)「ハローダMS大学博物館」(pp. 284-291)「ジャガットのアンピカー寺院」(pp. 304-319)「サスバフ寺院の天井装飾」(pp. 324-330, 337-340)「初期ハッラヴァ朝におけるヒンドゥー石窟の彫刻」(pp. 359-392)「チェンナイ州立博物館 ヒンドゥー教美術」(pp. 501-504)「タンジャブール・アートギャラリー」(pp. 505-512)「エローラ第11窟、第12窟の菩薩群像」(pp. 671-702)宮治昭編『古代インドにおける宗教的造型の諸相:寺院建築と美術の成立と展開』全2巻 平成14~17年度科学研究費補助金 基盤研究(A)海外学術調査 研究成果報告書、2007年3月。
VI	1	104	フリップ・ローソン著『聖なるチベット 秘境の宗教文化』(イメージの博物誌 25) 平凡社 1992年9月、101頁(森喜子と共訳)。
VI	2	105	マルティン・ブラウエン著『曼荼羅大全 チベット仏教の神秘』東洋書林 2002年9月、279頁。
VII	3	106	「ツインマーマン・コレクションの『ヴァジュラーヴァリー四曼荼羅』:チベットにおけるマンダラ伝承の一事例」『美術史』第144冊 1998年3月 p. 239.
VII	4	107	「オリッサ州カタック地区の密教美術」『美術史』第146冊 1999年3月 pp. 412-413.
VII	5	108	「チベット仏教美術におけるイメージの機能」『比較思想研究 別冊』第29号 2003年3月 pp. 47-50.
VIII	1	109	"Tantric Buddhism in relation to South India" International Seminar on Tamil Buddhism, Madras, India, 24-28, May, 1992.
VIII	2	110	"Iconography of maṇḍala according to the <i>Vajrāvalī-nāma-maṇḍalopāyikā</i> ", Symposium on Indo-Tibetan Tantric Buddhism, Sarnath, India, 26-28, March, 1995.

VIII	3	111	"The Bon deities depicted in the wall paintings in the Bon rgya monastery", <i>New Horizons in Bon Culture in Tibet</i> , National Museum of Ethnology, Senri, 25, August, 1999.
VIII	4	112	"The Vajrāvālī maṇḍala series in Tibet", <i>International Conference of Esoteric Buddhist Studies</i> , Koyasan University, 7, September, 2006.
IX	1	113	立川武蔵著『女神たちのインド』(せりか書房)『民博通信』第53号 1991年8月 pp. 19-24.
IX	2	114	田中公明著『チベット密教』(春秋社)『東方』第9号 1993年12月 pp. 251-252.
IX	3	115	Kalpapakam Sankaranarayan, Motohiro Yoritomi & Shubhada A. Joshi eds., <i>Buddhism in India and Abroad: An Integrating Influence in Vedic and Post-Vedic Perspective</i> , Mumbai, Somaiya Publications. In <i>Sambhāṣā</i> , Vol. 19, September 1998, pp. 129-132.
IX	4	116	Tanaka, M. & M. Tachikawa eds., <i>Living with Sakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia</i> . Senri Ethnological Studies no. 50. Senri: National Museum of Ethnology, 1998. 『南アジア研究』第12号 2000年10月 pp. 248-254.
IX	5	117	北村太道・ツルティム・ケサン共訳『秘密集会安立次第論註釈』(永田文昌堂)『密教学研究』第33号 2001年3月 pp. 174-178.
IX	6	118	島岩・坂田貞二編『聖者たちのインド』(春秋社 2001年)『北陸宗教文化』第14号 2002年3月 pp. 156-160.
IX	7	119	Samten Karmay & Yasuhiko Nagano eds. <i>New Horizons in Bon Culture in Tibet</i> , Senri Bon Studies 2, Ethnological Reports 15, National Museum of Ethnology, July, 2000『密教学研究』第34号 2002年3月、pp. 195-201.
IX	8	120	杉本 卓洲『ブッダと仏塔の物語』(大法輪閣 2007年)『北陸宗教文化』第20号 2008年3月 pp. 123-127.
X	1	121	「法界マンダラの諸尊リスト」『法界マンダラの神々(国立民族学博物館研究報告別冊 第7号)』(長野泰彦・立川武蔵編)1989年3月 pp.45-61(立川武蔵、八神由布子、安藤嘉美、服部しのぶと共著)。
X	2	122	「日常供養」『マンダラ 宇宙が舞い降りる』(立川武蔵編) 新國民社 1990年10月 pp. 149-151.
X	3	123	「後期密教」『密教学会報(特集:密教を知るための手引き)』第33号 1994年3月 pp. 60-73。(増補改訂版が「後期の密教」として松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』法蔵館 1995年11月 pp. 32-47に収録)
X	4	124	「ロンドン大学東洋学アフリカ学院」『高野山大学学報』第32号 1994年7月 p.10.
X	5	125	「チベットの死者の書」とは何か『ユリイカ』(臨時増刊号)第26巻第13号 1994年12月 pp. 30-39.
X	6	126	「ペンコルチューデ仏塔図版一覧、塔内概念図および図版」『チベット仏教図像研究 ペンコルチューデ仏塔(国立民族学博物館研究報告別冊 第18号)』(立川武蔵・正木晃編)1997年3月 pp. 5-215(正木晃、立川武蔵、山口しのぶ、吉崎一美と共著)。
X	7	127	「図版解説」(マンダラ、忿怒尊、女尊の項)『西西藏(チベット)石窟遺跡』頼富本宏監修 集英社、1997年11月。
X	8	128	「オリッサ州カタック地区の密教美術の研究」『平成8年度三島海雲記念財団研究報告書』1997年12月 pp. 54-56.
X	9	129	「補遺」『松長有慶著作集 第四巻 マンダラと密教美術』法蔵館 1998年4月 pp. 341-359.
X	10	130	「インドの宗教に見られる生死観」高野山大学生命倫理研究会編『生と死:いのちを考える 平成10年度生命倫理講座講義録』高野山大学 1999年3月 pp. 307-355.
X	11	131	「玄奘と密教」『三蔵法師のシルクロード』三蔵法師の道研究会編 朝日新聞社 1999年6月 p. 173.
X	12	132	「東インド・オリッサ州の密教美術① 密教美術のくふるさと」『春秋』第411号 1999年8月 pp. 21-25.
X	13	133	「東インド・オリッサ州の密教美術② マンダラの形あれこれ」『春秋』第413号 1999年10月 pp. 29-32.
X	14	134	「東インド・オリッサ州の密教美術③ 神は細部に宿り給う」『春秋』第414号 1999年11月 pp. 13-16.
X	15	135	「密教とは何か インド密教の思想と実践」『出会い キリスト教と諸宗教』51号 2001年4月 pp. 3-19(2000年9月11日に行われた日本キリスト教協議会宗教研究所主催のゼミナール「真言密教を学ぶ」における講演の記録)。
X	16	136	「密教美術の世界」①源流としてのインド ②多様化する仏たち ③仏塔という宇宙 ④天界の模式図マンダラ ⑤ボン教の神々 2001年10月～11月(北日本新聞、信濃毎日新聞等、共同通信社配信の各紙)。
X	17	137	「マンダラ、その構造と機能」『マンダラ チベット・ネパールの仏たち』(立川武蔵編)国立民族学博物館、2003年3月、pp. 58-76.
X	18	138	「ブータンの立体マンダラ」『みんなく』2003年3月、表紙解説。

X	19	139	「「見ること」による救い」『PSIKO』第30号 2003年3月、pp. 40-43.
X	20	140	「民族博物誌 ハス」『みんぱく』2003年6月、pp. 20-21.
X	21	141	「書評 奥山直司著『評伝 河口慧海』」2003年9月～10月(共同通信社配信の各紙).
X	22	142	「インド・ラダックの遺産」2003年12月(共同通信社配信の各紙).
X	23	143	「テキストを読む・図像を読む」『人文科学の発想とスキル』金沢大学文学部 2004年3月、pp. 123-130.
X	24	144	「中国・雲南省の密教美術(上) 南詔と大理に残る密教の仏たち」『春秋』第457号 2004年4月、pp. 16-19.
X	25	145	「中国・雲南省の密教美術(下) 経幢と陀羅尼信仰」『春秋』第458号 2004年5月、pp. 21-24.
X	26	146	「マンダラと儀礼」2004年5月2日(中日新聞とその系列紙).
X	27	147	「書評 石澤良昭著『アンコール・王たちの物語』(NHK出版、2005年)」2005年9月～10月(共同通信社配信の各紙).
X	28	148	「マンダラの見取り図と尊格名」松長有慶編『インド後期密教(上) 方便・父タントラ系の密教』春秋社 2005年11月、pp. 225-233.
X	29	149	「マンダラの見取り図と尊格名」松長有慶編『インド後期密教(下) 般若・母タントラ系の密教』春秋社 2006年1月、pp. 221-233.
X	30	150	＜項目執筆＞「霊山寺 十一面観音菩薩立像」他10件『仏像』(小川光三写真、關信子・山崎隆之編・監修)山と溪谷社 2006年3月.
X	31	151	「マンダラの表現方法とその意味」立川武蔵編『マンダラ 心と身体』財団法人 千里文化財団 2006年7月 pp. 51-72.
X	32	152	「西インド・エローラ石窟における密教図像の成立に関する研究」『高梨学術奨励基金年報』(平成17年度)(財)高梨学術奨励基金 2006年11月 pp. 19-22.
X	33	153	「マンダラを問い直す」『へんじょう』総本山善通寺 第20号 2006年12月 pp. 5-6.
X	34	154	「日本人はマンダラをどのように見てきたか」『点から線へ』第50号 2007年3月 pp. 78-102.